



# 農協だより

## 第二回えだまめ収穫体験

平成 24 年 7 月 27 日安芸区阿戸町で『第 2 回 J A 安芸 こだわりえだまめ収穫体験』をおこないました。暑い中たくさんのご参加をいただきました。くわしくは別紙を添付しておりますのでご覧ください。ホームページでもご覧いただけます。



## 集荷のお願い!

今年も 9 月 28 日から平成 24 年産米の検査が始まります。買取価格が決まり次第、出荷者の方々には日程等必要書類を送付いたしますので、多数の出荷をお願いいたします。

## JA安芸切花品評会



7 月 29 日、阿戸支店で「平成 24 年度 J A 安芸切花品表会」が開催されました。出品点数は 43 点で例年より少なめではありましたが、梅雨明けの猛暑にも関わらず質の高い物が多く前日の審査では甲乙付けがたくとも苦労しました。14 時から表彰式が行われ、その後ビンゴゲーム大会、出品物の即売会と大変盛り上がりしました。



## 中野野菜生産者会視察

8/6 に中野野菜生産者会が三原市大和町椋梨地区のピーマンの圃場を視察しました。約 6 a の圃場をほぼ一人で栽培し農協を通じ市場出荷されているとの事でした。視察時は温度も高く日焼け果もあるとの事でしたが、整枝をしっかり行い特に株元の通風を図っておられ、灌水も 6 日程度に 1 回は畦間灌水をしっかり行う事で良質な物が収穫できるとの事でした。



## 農産物検査員技能確認会

7 月 30 日 J A 呉の本店において平成 24 年農産物検査員技能確認会が開催されました。今月から米穀出荷検査が始まりますが J A 安芸では職員 4 人で検査を行っており、その際同じ格付けをする、技量を持ち合わせる為、毎年この時期に行われております。この確認会において J A 安芸の検査員は優秀な成績を収めておりますので、安心してたくさんの方の平成 24 年産米穀出荷をお願いいたします。



## 土壌診断受付 不用農薬適正処理受付を行っています。

コシヒカリ刈取り後の土壌診断を受付いたします。申し込み方法等を同封しています。

お問い合わせは営農指導センターまで (082-855-6176)

## 夏まき野菜苗出荷!

育苗センターでは、夏播き野菜の苗を 8 月 20、21 日にかけて、キャベツ・ブロッコリー・カリフラワー苗約 5,500 鉢を各支店へ出荷いたしました。続いて、レタス・キャベツ、イチゴ苗の出荷をいたしますので、よろしくお願いたします。



## 講習会を開きました!

- ☆稲作講習会 (8/6 畑賀・阿戸支店、8/7 上瀬野・瀬野支店、8/8 東海田・中野支店 8/9 萩原・中須賀支店、8/10 初神・新宮)
- ☆8/3 スミレ会講習会
- ☆8/6 瀬野女性部 ☆8/9 農業講座(育苗センターにて)

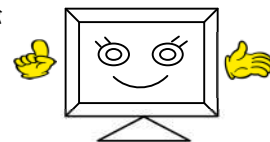
## 稲作講習会



## 電子図書の利用

害虫、雑草、農業情報を検索閲覧できます。

8 月に支店購買部へ障害を受けたなすびの葉を持参されて相談されました。早速、電子図書のディスプレイパネルの病害虫で検索を行いました。いろんな病害虫の写真が表示される中から似たような症状を見てタッチすると「ハダニ」の被害ということが解り肉眼では見えない「ハダニ」の拡大写真を見て納得されました。「ハダニ」の説明、対策、登録農業を調べることができて大変喜んでいただきました。



## 安芸のやさしい農業講座

8 月 9 日、坂町で『安芸のやさしい農業講座』の講座が開催されました。受講者は 17 名おられ、12 月 1・2 日の農産物品評会の出品に向けて、秋播き野菜の栽培を中心に講習を行いました。また、出品に際して入賞しやすい農作物の荷作りや、姿作りを講習し、受講者には大変喜んでいただきました。



# 9月営農メモ



## ..花き..

### キンセンカ

春の彼岸の需要が高く価格の良い時期に出荷させる為に、9月上旬から9月中旬にかけて播種します。品種は耐寒性が強い「オレンジスター」や「やしま芯黒」などがいいでしょう。育苗に関しては、1dℓで3.3㎡播種でき発芽適正温度は15~20℃のため寒冷紗などで温度を下げてください。灌水は頭上からすると腐敗しやすいので条間灌水します。発芽後7~10日と15~20日の2回間引きます。育苗期間は約25日でその後畝幅100~120cm、条間2~4条で株間9~12cm間隔に本田へ定植します。本葉10枚頃に6~7枚残して摘心し4~5本仕立てにします。

## ..野菜..

**播種できる物** 今月はだいこんやはくさい、ほうれんそうなどの播種が行えます。これからは次第に寒くなっていく時期となりますので、播種時期が極端に遅れたりすると収穫できなくなる事もありますので、先月の農協だよりの表を参考に適期に播種してください。

はくさいは9月中旬にほまれ二号等を、だいこんは9月下旬~10月上旬に冬みねセブン等を播種すると12月~2月頃に収穫となりますので早生品種以外の作型も栽培して見てください。

**圃場管理** 追肥 キャベツなど8月に苗を定植した場合、定植後15~20日頃と1カ月後頃に追肥となります。葉物野菜や根物野菜は生育初期~中期に肥料が不足すると良い物が収穫できませんので必ず行ってください。また晴天が続く場合には灌水も行ってください。

**病害虫** 9月頃よりヨトウムシ等の害虫被害が多くなります。ヨトウムシの場合被害の出始めの頃は葉の裏側を食害され、葉の上から見た場合白~茶色のカスリ状となります。この頃は葉の裏側に若齢幼虫が密生しているのでこの時期に防除すると効果が高いので圃場を見回り被害の出始めに防除する様にしてください。

アフーム乳剤やアディオン乳剤、ジェイエース水溶剤などが効果がありますので登録の確認後散布してください。また、幼虫が大きくなると薬剤の効果も低くなりますので初期防除を徹底してください。

## ..水稲..

◎適切な水管理で、粒張りのよい米に仕上げましょう。

出穂後30日までは粒は肥大しており、早期落水は登熟歩合の低下や玄米の充実不足の原因になります。落水は出穂後30日をめやすとします。落水後も田面が乾き過ぎないように走り水をするとう登熟により影響を与えます。

◎収穫適期

今後も気温は高めの予報になっています。それに伴い、成熟期が早まると思われるので、「いつもどおり」「去年どおり」で刈取日を決めずに、稲作ごよみを参考に青籾率を確認して刈り遅れにならないようにしましょう。

◎籾の乾燥

適正水分14.5%をめざしましょう。

◎適正水分の確保

急激な乾燥は食味を落としますので1時間当たりの乾燥率を0.8%以下にしてください。

## ..果樹..

### 柿

果実肥大から成熟期にあたり、果実の大きさは果肉の細胞の数と大きさによって決まります。9月は、葉で作られた光合成産物によって果実の細胞が肥大して大きくなります。富有柿では、200gくらいの果実を生産するために1果当たり15枚の葉が必要です。また、果実のへたは果実の肥大に大きな影響があるので傷みのない大きなへたが着いているものが大きく障害も少ない果実になります。

病害虫対策では、炭そ病(果実)、カメムシ類の重点防除時期です。炭そ病では、台風などによる連続降雨の場合、その前後の防除を徹底します。使用農薬はオーソサイド水和剤80を1000倍で散布します。また、カメムシ類は、アディオン乳剤を2000~3000倍で散布します。

### いちじく

9月は本格的な収穫期になります。イチジクの根の酸素要求は高く耐水性には弱いので、台風等で滞水状態なのは注意が必要ですが、葉からの蒸散量が多いため水分要求量が多く果樹の中では土壌水分不足の影響が最も早く現れるので乾燥には注意して灌水を行います。

害虫対策としてキボシカミキリ、カイガラムシ類、アザミウマ類に対して収穫前日まで処理できる農薬としてモスピラン水溶剤があります。

キボシカミキリ—— 樹の皮をかじったり産卵して樹の中に食い入る。

カイガラムシ類—— 果皮上に分泌液を落とし果実が黒くすすける。

アザミウマ類 —— 果実が口を開くと、その中に入って果実の内部を傷める。